

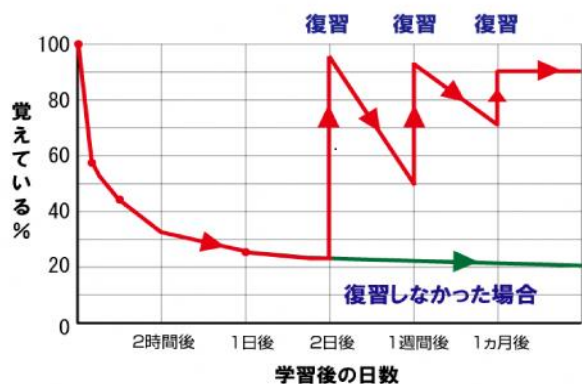
えりもしやくなげ



発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525
<http://www.town.erimo.lg.jp/section/kyouiku/sg6h94000000pqh.html>

人間は忘れる。だから、授業以外に身に付けるための家庭学習時間は絶対必要

エビングハウスの忘却曲線と復習の関係



- 上のグラフは、ドイツの心理学者ヘルマン・エビングハウスの「忘却曲線」と言われています。
- 例えば、『2日後には学んだことが75%程度忘れる』という研究結果です。
- えりも町の児童生徒は、調査の結果、家庭学習の時間が全国に比べても極めて少なく、先生方も頭を悩ませています。学んだことを自分の知識とするために家庭学習などをすることが何よりも大切です。基礎学力の習得のために家庭の協力をお願いします。

夏休み、児童が「学習サポート」に参加

えりも小の児童



1学期に学んだ算数の学習を、先生が用意してくれたプリントで振り返る2年生

笛舞小の児童



2日目の8月16日、自分の苦手なところに挑戦して学習に取り組む1・2年生

庶野小の児童



同じ教室で、1年生に分からないところを教える4年生のお兄さん

えりも岬小の児童



昆布の手伝いの後に学校に来て、1学期の振り返りを一生懸命に取り組む6年生

夏休みがんばった小学生 19 名～スキルアップ・スクール～

7月23日、夏休みに入ってからすぐ、小学生19名が「スキルアップ・スクール」に参加しました。えりも高校生5名(学習ボランティア)が、先生となって親切に児童のサポート役となり教えてくれました。

修了時には児童一人一人に『頑張り修了書』が渡されました。



えりも高校のお兄さんから、ちょっと分からないところなどを聞いて考える5年生

高校生ボランティアの皆さんが協力

工藤彩加さん(3年)、宝金楓夏さん(3年)、藤井 柊君(3年)、田丸 朔君(2年)、三戸菜緒さん(1年)の5名が、それぞれグループを分担して教えてくれました。この5名の姿勢に感銘するとともに、お兄さん、お姉さんと小学生の世代間の絆やコミュニケーション力を深める機会となりました。とても意義のある取組です。

教育委員会では、このことが高校生と中学生、中学生と小学生の間に広がるよう学校での取組も期待しています。

学校と委員会の取組の意図

学校と委員会では、次の3つのこと、1つは夏休み中に4日から5日間の家庭学習になること、2つは家庭学習習慣を身に付けるきっかけになってほしいこと、3つは基礎学力をアップする手立てとなることをねらいとして進めました。

参加した皆さんの感想

えりも小2年 粕谷 要 君

国ごの言ばの学しゅうで、□にひらがなを入れるもんだいがありました。

「□しゃく」がわからなくて、こまっていたら、高校生のさやかさんが、「くつついたり、はなれたりするものだよ。」とヒントをくれたので、わかりやすかったです。

学しゅうしたあとに手作りバターを作りました。ペットボトルの中に生クリームを入れてふるとかたまってバターができました。じっけんみたいで楽しかったです。

学しゅうも体けんかつどうも楽しかったので、またさんかしたいと思いました。

えりも小4年 三谷 優菜 さん

夏休みに入って、スキルアップスクールに行きました。その感想を書きます。

高校生のお兄さんとお姉さんは勉強の教え方が上手でやさしく、わたしも少しきんちょうしていましたが、そのきんちょうはすぐやわらぎました。とてもわかりやすかったです。

勉強も体験じゅ業などが楽しく、スキルアップスクールに行って良かったと思いました。